

「第9回展覧会企画公募」

「Route / 59ヶ月」
門馬美喜「バロン吉元の脈脈脈」
エ☆ミリー吉元「ASK THE SELF」
高川和也

2016年2月27日(土)～3月27日(日)
トーキョーワンダーサイト本郷

トーキョーワンダーサイト(TWS)は、芸術や文化に携わる人材の育成を一つのミッションに掲げ、若手企画者の展覧会企画を公募しています。

第9回目となる今回は、各分野の第一線で活躍する遠藤水城、高山明、高嶺格と、TWS 事業課長の4名による厳正なる審査の結果、3企画を選出しました。この3組の企画は、“なぜ、今ここで、その展覧会を行うのか”を考えた時に、他のどの応募企画よりも実現の必要性が高く、また企画者自身もその意識が高いと審査で認められたものです。

福島で未だに残る震災遺構とそこに暮らす人々の風景を描き続ける門馬美喜。漫画家であり、画家でもある実父バロン吉元の世界観を娘ならではの視点で展開するエ☆ミリー吉元。自身の中にある複数の他者(=自己)の存在を確かめようとする高川和也。それぞれの視点から、社会や個人を見つめ、その在り方を提起する若手3組の企画にご期待ください。

第9回展覧会企画公募

展覧会を企画・開催する意欲をもった若手の支援・育成を目的とした公募プログラム。選出された企画者は、審査員のアドバイスやTWSのサポートを受けながら、展覧会コンセプト、展示構成、イベント、予算など具体的な実施計画を含む企画に磨きをかけ、最終的に展覧会として実現させます。

募集期間：2015年4月14日～6月26日

応募総数：66企画

審査方法：一次審査(書類審査通過9企画)、二次審査(面接審査選出3企画)

審査員：遠藤水城(インディペンデント・キュレーター/ HAPS エグゼクティブ・ディレクター)、高嶺 格(現代美術家/ 秋田公立美術大学准教授)、高山 明(演出家/ Port B 主宰)、黒田みのり(トーキョーワンダーサイト事業課長)

< お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内
公益財団法人東京都歴史文化財団トーキョーワンダーサイト
広報担当：市川、藤井

TEL: 03-5602-9881 / FAX: 03-5602-9882 / E-mail: press@tokyo-ws.org

■ 展覧会概要

- 公募名: 第9回展覧会企画公募 (英語タイトル: The 9th Emerging Artists Support Program)
- 展覧会名/企画者/スペース: 「Route/59ヶ月」 / 門馬美喜 / スペース A
「バロン吉元の脈脈派」 / エ☆ミリー吉元 / スペース B
「ASK THE SELF」 / 高川和也 / スペース C/D
- 会期: 2016年2月27日(土)～3月27日(日)
- 会場: トーキョーワンダーサイト本郷 (東京都文京区本郷2-4-16)
- 開館時間: 11:00～19:00 (最終入場は30分前まで)
- 休館日: 月曜日 (ただし3/21(月・祝)は開館、3/22(火))
- 入場料: 無料
- 主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト
- ウェブサイト: <http://www.tokyo-ws.org>
- オープニング: 2月27日(土)15:00～17:00
- 各企画者によるトーク及び審査員による講評を予定しています。
[審査員] ※やむを得ない事情により出席者は変更となる場合があります。
遠藤水城 (インディペンデント・キュレーター / HAPS エグゼクティブ・ディレクター)
高嶺 格 (現代美術家 / 秋田公立美術大学准教授)
高山 明 (演出家 / Port B 主宰)
黒田みのり (トーキョーワンダーサイト事業課長)
- 関連イベント: 企画毎にトークなどのイベントを開催予定です。詳細は本展覧会チラシ及び TWS ウェブサイトにてお知らせします。

各企画概要

「Route / 59ヶ月」 門馬美喜 (英タイトル: Route / 59 months)

福島第一原発から南へ約45キロに位置する福島県相馬市に、実家とアトリエを持つ門馬。津波と原発事故により鉄道は寸断され、そこから他の場所へ向かうには、それ以外のルートを探すしかありませんでした。門馬は、2015年に相馬市ー東京間を、さまざまな手段で何十往復と移動する中で目にした風景を絵画へと変換していきました。本展では、門馬が見た風景を描いたシリーズに加え、震災の混乱の最中に生まれ、もうすぐ5歳になる知人の子供にカメラを装着し、子供ならではの視線が捉えた風景を、絵画に表現したシリーズを含む全6ルート、125枚におよぶキャンバスで壁面を埋め尽くします。絵画にはキャプションを付けず、鑑賞者はその小さなキャンバス一枚一枚から、未だに残る震災遺構と、今もそこで生き続ける人々の風景を感じ取ることでしょう。すべての絵画に目を通した最後に、門馬自身による解説リーフレットが配置され、改めて鑑賞者に絵画の解釈を問いかけます。



[門馬美喜 | Miki Momma]

1981年生まれ。2005年東京造形大学造形学部美術学科絵画専攻領域概念コース卒業。翌年中国へ留学し、中国美術学院書法班(書道)、2007年中央美術学院中国系山水班(水墨画)を卒業。水彩、油彩、写真、水墨画など多様な手法を用いて制作をする他、パフォーマンスも行う。滞在中、中国大陸を縦横断した経験を持つ。2013年、震災の影響で断念していた美術制作を再開し、2015年11月に個展「Route 故郷 / 被災地に通う道」(ギャラリーなつか、東京)を開催。

「バロン吉元の脈脈脈」 エ☆ミリー吉元 (英タイトル: Baron Yoshimoto: Pulse! Pulse! Pulse!)

物事の二面性やその対極にあるものを作品やインスタレーションとしてユーモラスに発表してきたエ☆ミリー吉元。本展では、戦後の漫画文化の発展を担った漫画家であり、画家としても活動する実の父“バロン吉元”に焦点をあてます。1959年から“バロン吉元”として発表をしてきた漫画作品と、雅号“龍まんじ”として30年間制作を続けている絵画作品を、娘であるエ☆ミリー吉元が同時に展示する初の試みです。また、バロンのスタジオを再現した空間では、本人による公開制作を行う予定です。さらに会期中には、バロンに縁のある漫画家や評論家などによるトークイベントも企画中です。



[エ☆ミリー吉元 | E☆mily Yoshimoto]

1993年生まれ。東京を拠点に活動するアーティスト。2011年女子美術大学芸術学部美術学科洋画専攻卒業。在学中に、スクール・オブ・ビジュアル・アーツ(ニューヨーク)、ラフバラ大学(ラフバラ、イギリス)へ留学。2010年よりアート団体「愉鳴呼社」のメンバーとして国内外で作品を発表。近年は、「シブカル祭。2014」(渋谷パルコ、東京)、「TRANS ARTS TOKYO」(東京、2012、2013)、「六本木アートナイト 2013」(東京)などに参加。「二科展」(国立新美術館、東京、2013、2014)の彫刻部門に入選。

「ASK THE SELF」 高川和也

ある特定のイデオロギーに対して同一を求める心性は、その不可能性とともによく議論されてきました。人間は、物事を判断したり選択したりする時、自分の中にある“複数の他者”に対し、常にその行為を委ねていると高川は考え、そんな自分自身の中にある複数の“他者”という存在を確かめようとしてきました。“自身に問う”や“自身を呼び起こす”という意味をもつ本展では、懸命に生を確かめ留めようとする人間の弱さをさらけ出し、自分自身でもあるその“他者”と向き合うことで、自律へと向かう高川自身や人々の様子を、映像とドローイングで構成されたインスタレーションとして発表します。



[高川和也 | Kazuya Takagawa]

1986年生まれ。2012年東京藝術大学大学院美術学科修士課程修了。2008～2011年にかけて、ソウルなど国内外のレジデンスプログラムに参加。近年は、主に映像やドローイングを使った作品を制作発表している。主な展覧会に、「screen」(HIGURE 17-15cas、東京、2014)、「Kazuya Takagawa solo show」(3331 Arts Chiyoda、東京、2012)、「Reflection of an outsider on outsider」(Seoul Art space GEUMCHEON、ソウル、2011)、「BEDAH VIDEO & KOPI SORE」(S-14、インドネシア、2011)などがある。

広報用画像

*この他にも広報用画像をご用意しております。詳しくは広報担当までお問い合わせください。

「Route/59ヶ月」



門馬美喜
《東北電力火力発電所が遠くに見える橋》
2105

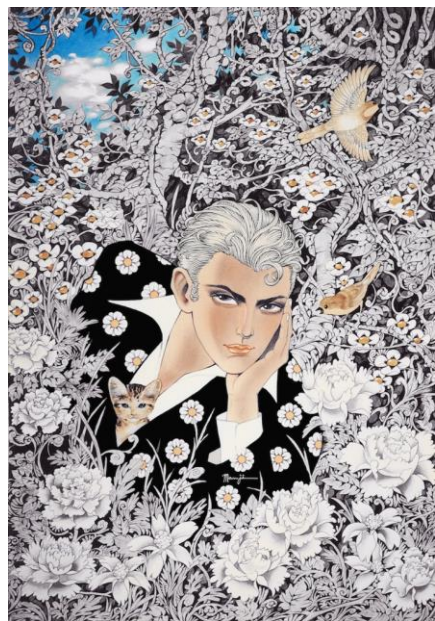


門馬美喜
《作り始められた高架の脚》
2015



門馬美喜
《世界中から「汚染されているかもしれない」と
思われている地域にも、静かな夜が来る。》
2013

「バロン吉元の脈潮脈」



バロン吉元《安蘭》1991

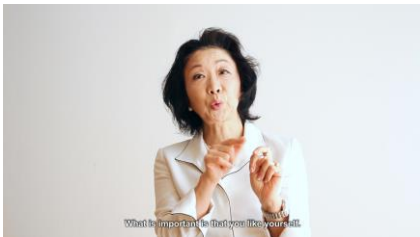


バロン吉元《浄流心》1986



バロン吉元『現代柔侠传』より 1974

「ASK THE SELF」



高川和也《ASK THE SELF》2015



高川和也《日の出のドローイング》2015



高川和也《Untitled #3》2014